

社会階層と健康 (2)

—出身家庭の子どもへの健康行動への影響—

北星学園大学 中田 知生

1. 目的

本研究の目的は、子供の健康に関わる生活習慣の出身階層の効果を検証することである。

生活習慣は社会階層と健康における媒介要因としてしばしば言及される。確かに、出身階層の効果については次第に明らかになっているものの、その生成過程については文化資本を含め未だあまり明らかにされていない。本研究においては、それらの健康行動が内面化されると思われる小学生以下の子どもに焦点を当てて複数の健康行動を潜在クラス分析により縮約したパターンとして把握し、習慣パターンの特徴を要因分析することからその生成過程を明らかにする。

2. 方法

データは、「まちと家族の健康」調査データ (J-SHINE) 2012 年 8 月配布版を用いた。J-SHINE データでは、調査対象者本人、その配偶者に関するデータはもちろん、保護者としての立場から、また子供本人に対しても調査票を配布して子供の健康とその要因と思われる項目に関するデータも収集している。本研究では、それらの子ども調査や配偶者調査データも分析に含めることにより、小学生以下、すなわち 12 歳以下の子どもの生活習慣を検証した。

従属変数には、子供の生活習慣として、健康に関連する「朝食を毎日食べる習慣」、「スナック菓子を食べない習慣」、「歯磨きを習慣的に行うこと」、「排便を定期的に行うこと」を用いた。また、独立変数には、子供本人の基本属性である年齢、性別、健康の自己評価、兄弟の順番、兄弟数、子供が評価したその家庭の文化資本、両親の教育、そして、両親の健康行動を用いた。分析に含まれた子どもの人数は、826 人であった。

3. 結果

まず、従属変数を縮約されたパターンに分割すると、適合度指標より 3 つのクラスが抽出された。第 1 クラスは「スナック菓子食べる以外は、健康的行動を取る」、第 2 クラスは「歯磨きやや劣る、大便の習慣は悪い」第 3 クラスは、「大便行動は中程度である以外は健康的行動を取る」のような特徴があることがわかった。次に、これらのクラスがどのような要因によって規定されているかを多項ロジット分析によって分析した。その結果、第 2 クラスを基準とすると、第 1 クラスは男性、高い社会関係資本、高い健康、年齢低い、そして、第 3 クラスは、男性、高い兄弟寿に、年齢低いことが見て取れた。

4. 考察

高い社会関係資本は、男性や健康と関連して健康的な行動を内面化するが、その反面、スナック菓子などの嗜好品を食べる習慣も身につける。歯磨き習慣がやや劣るクラスに主に女性が含まれるというのは解釈が困難だが、年齢が上がるとこのような習慣がなくなっていくことは理解できるかもしれない。ただし、ここでは習慣の規範に基づいた行動を測定しているはずだが、第 2 クラスのように大便を定期的にすることができないと思われる生物学的特徴が出ているかもしれない。

なお、本研究は平成 21～25 年度文部科学省科学研究費新学術領域研究「現代社会の階層化の機構理解と格差の制御：社会科学と健康科学の融合」(代表：川上憲人東京大学大学院医学系研究科教授) の研究結果の一部である。J-SHINE データ使用については、2012 「社会階層と健康」 研究班データ管理委員会の許可を得た。